

平成三十年度

愛恵会だより 夏号

今年も早いもので、既に折り返し地点を過ぎました。今夏は記録的な猛暑で、四十度を越える地点もあつたようです。また大阪での地震や、西日本での大豪雨といった自然災害もあり、重苦しさを感ずる夏でもあります。

そうした中でも、乳児院は着々と前進を続けています。

国連の「児童の代替的養護に関する指針」には「施設養護を提供する施設は、児童の権利とニーズが考慮された小規模で、可能な限り家庭や少人数グループに近い環境にあるべきである」と記されています。この考え方の根底にはジョン・ボウルビーという心理学者の愛着に関する理論があります。乳幼児の健全なメンタルヘルスを保つためには、温かく親密かつ継続的な関係が必要とされるという内容です。これに関しては古今東西膨大な研究がなされており、その詳細をここに記すことは到底できません。しかしながら、今秋から愛恵会で始まる小規模養育体制はそうした調査・研究、さらには社会的養育実践の歴史の流れの中に位置づけられるものであることは間違いありません。

さる七月に厚生労働省から通知された「都道府県社会的養育推進計画の策定要領」は、さらなる「家庭養育優先原則」の徹底を求めています。愛恵会が子どもにとってより安心できる場所となること、それとともに広く地域社会の子育てに貢献できる機関となることを目指して、尽力して参ります。

小林（高）

お宮参り・お食い初め

ひよこホームのお二人が、高幡不動尊へお宮参りに行きました。今年度より皆様から頂いた寄付金を活用し、健康祈願の護摩焚きもしました。お二人とも立派なお札とお守りを頂くことができました。

同日院では、『お食い初め』を行いました。「一生食べ物に困らないように・・・」との願いを込めて一口ずつ小さな口元に運びました。



この中で護摩焚き…大きな太鼓の音にも泣かなかったよ◎



たくさん食べて元気に大きくなあれ！

白百合ベビーホーム

小規模養育ユニット見学

乳児院における小規模化（家庭的養護）は重要な課題とされており、一つのグループの児童定員は四人以上六人以下と定められています。白百合ベビーホームは小規模ケアユニットが八つ、それぞれに五名の児童が暮らしています。二か月〜二歳児縦割り（異なる年齢の児童が暮らす）となっていて、一人の職員が担当する子どもは一人です。入浴は一人の職員が子どもの脱衣、体を洗う、着衣までを完結していて、他の職員が残った子どもを見守っています。誕生月には担当養育者との外出の機会があり、またそれ以外にも職員が自主的に個別で外出することがあります。一歳の誕生日には写真館に行き、記念写真を撮ることが多いそうです。

白百合ベビーホームではユニット職員と調理員が協力して食育に取り組んでいて、随所に特徴がありました。朝食・夕食は各ユニット、昼食はランチルームで食べます。ランチルームは調理室と隣接し、子どもが食事作り風景を見ることが出来ます。食器洗い、調乳はユニットで行います。各ユニットで米を炊き、その

今秋から小規模養育体制を実施するにあたり、既に実施している施設の見学をさせていただきました。ご多忙中にも関わらず快く引き受けてくださった、白百合ベビーホーム・至誠館さくら乳児院には心から御礼申し上げます。

他は調理室で作ります。各ユニットで育てた野菜を子どもたちが収穫し、食材とすることもあります。このように食事作りをユニットで行うことで子どもが調理過程を見ることができ、また年長児は手伝うことも可能です。職員さんによると、小規模養育を実施することで子どもが安心して過ごせるようになり、職員のとを迫る行動が減少したとのことでした。少しでも家庭に近い環境を整えることの大切さを感じました。

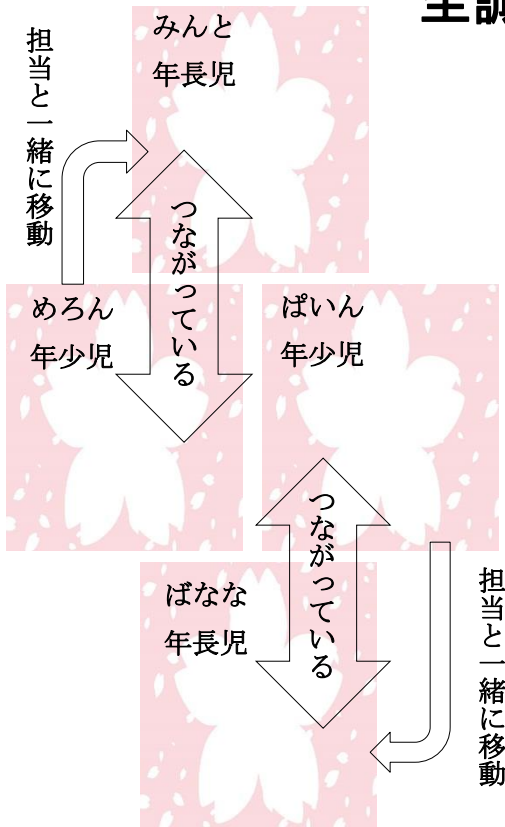


ランチルームから調理の様子
を見ることができます。



手作りパンはとてもおいしかったです。

至誠館さくら乳児院



至誠館さくら乳児院は、小規模ケアユニットが四つあり、それぞれに五人の児童が生活をしています。一人の職員が一人の児童の担当となります。横割り（年齢によってグループ分けする）になっており、「めろん・みんな」と、「ばいん・ばなな」がそれぞれつながっています。各ユニットにトイレ・風呂がついていて、二つのユニットにキッチンがあります。子どもたちは月齢や成長に合わせて、年少児対象の「めろん・ばいん」から年長児対象の「みんな・ばなな」に担当養育者と一緒に移動します。

食事はユニットごとに食べます。座る席が決まっていることで、子どもたちは自分で着席し、安心して食事することができます。またキッチンがついている居室では、食器洗いを見せることができます。眠る位置も各自決まっており、自分専用と理解しているとのこと。

小規模化の意義

- 一般家庭に近い生活体験を持てる
- 落ち着いた雰囲気安定した生活を営める
- 安全に暮らしているという安心感を持てる
- 養育担当者との個別的な愛着関係を築ける
- 分離体験を持つ子供たちの心を安定させられる
- 子供のニーズに沿った関わりができる
- 少数の乳幼児と職員との間で穏やかで応答性のある生活ができる

※平成 24 年 11 月 30 日付

厚生労働省通知より



「めろん・みんな」と、「ばいん・ばなな」それぞれに遅番職員一名、夜勤職員一名がいて、各ユニットで子どもを寝かしつけます。眠った子どもは夜勤者のいるユニットへ移動させます。遊びは横割りのメリットを活かし、年長児は電車を走らせて遊んだり、ブロックを使って構造物を作ったり、ごっこ遊びなどして他児と関わるすることができます。少人数だからこそ、静かに集中できる空間を作ることができます。

施設見学を通して、子どもを中心に据えた家庭的な小規模養育をいかに実施するかを考える必要性を感じました。

院外保育・アリオ橋本

七月三日・十日にひよこホーム・もりホーム・うみホームがアリオ橋本に行きました。往路は多摩境駅まで徒歩、電車で橋本へ。非日常の外出に緊張気味の子どもや、担当養育者と手をつなぎ楽しそうに歩く子どもものの姿が見られました。至近距離から通過する電車を見て驚き、養育者の手をギュッと握りましたが、通過後は興味津々に眺めていました。

アリオ橋本では欲しい物を買ったり、好きな乗り物に乗りました。昼食は店舗で買い、デザートにアイスを食べた子どももいました。

帰路はバスに乗りました。揺れが心地良いのか寝ている子どもや、停車ボタンに興味をもち押そうとする子どももいました。

両日とも暑い日ではありませんでしたが、体調を崩すことなく、担当養育者との一対一のお出掛けを楽しめました。



水遊び

梅雨の期間がとても短かった今年。院庭に水を撒いて、泥遊びをしたり、各ホーム前にビニールプールを設置して水遊びをしたりして、夏ならではの遊びを楽しんでいます。

泥遊びでは、オムツの中まで泥が入るほど、全身ドロドロになって遊んでいます。普段はさらさらの砂で上手にできない型抜きも、泥の状態なら上手にできます。

水遊びでは、それぞれ水着に着替え、思いっきり水の感触を楽しんでいます。水遊び開始当初は、頭から水がかかると嫌がっていた子どもも、回数を重ねるうちに慣れてきて、今では「もつともつ」と水かけを催促したり、他児にかけたりする姿も見られています。

感染症や台風の影響で、水遊びが出来ない日もありますが、まだしばらく水遊びの時期は続きそうです。事故に気を付けて、水遊びを楽しみたいと思います。



泥遊び



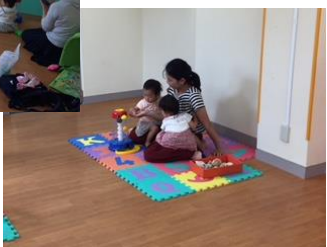
☆子育て支援広場

月一回（第一火曜日）に子育て支援広場を開催しています。

去る七月三日に行った子育て支援広場では、広場終了後の午後
に「午後はママのほっとタイム『おしゃべり会』」と題して、子ども
のお昼寝タイムに、ママたちと気楽なおしゃべりをする時間を作り
ました。ママたちの子育ての大変さ、楽しさ、工夫などを共有し、
有意義な時間を過ごすことができました。
今年度は一二月四日にも企画しています。たくさんの方のご参加
をお待ちしています。



子育て支援広場の様子



今後の予定

九月四日（火）一〇時～一二時
十月二日（火）一〇時～一二時
十一月六日（火）一〇時～一二時
十二月四日（火）一〇時～一二時
一月八日（火）一〇時～一二時
二月五日（火）一〇時～一二時
三月五日（火）一〇時～一二時

新入職員紹介

- ① 名前を教えてください。
ひよこホーム
たなかです。
- ② どうして愛恵会に就職しましたか。
保育園の保育士として働いていた時に、社会的養護の仕事に興味を持ちました。見学させていただき運営方針や暖かい雰囲気惹かれ、就職を希望しました。
- ③ 取得資格を教えてください。
幼稚園教諭免許2種・保育士。
- ④ 休日の過ごし方を教えてください。
気が向いたときに車でカフェやキャンプなど、どこへでも行きます。
- ⑤ 趣味を教えてください。
ドライブ旅行、キャンプ
- ⑥ 働く意気込みをどうぞ。
失敗ばかりですが、いつも失敗から学べるように頑張ろうと思います。丁寧な仕事が出来ることが目標です。宜しく願います。



ご寄付のお願い

子どもたちの健やかな成長のため、皆様の温かいご寄付をお願いいたします。

連絡先 .. 愛恵会乳児院 萩原

042(773)2806



広報委員

小林(由)、茅、池内
橋本、麻生、小林(高)

責任者 黒田

平成三十年八月二十日